

1. 崇元寺(そうげんじ)とは

崇元寺は、琉球王国の歴代国王の位牌(いはい)を祀った重要な場所だった。正門は三連アーチをもつ石造門で県内ではほかに例がない。正門の両端には「下馬碑(げばひ)」と呼ばれる石碑があり、碑のところから馬を下りることになっていた。門の美しさから1933年(昭和8)に国宝に指定されたが、沖縄戦で焼失。跡地に琉米文化会館が建立され、後に公園となった。

崇元寺公園北側は、末日聖徒イエス・キリスト教会が1966年(昭和41)に設立されたが、教会敷地には崇元寺の遺構が含まれることから、那覇市が2023年に教会敷地を取得した。崇元寺跡地は2025年(令和7)9月、国の文化財(史跡)に指定された。

2. 崇元寺の特徴

- ①この地は霊験(れいげん)あらたかな地で、後に安里(あさと)大親(ウフヤ)なる人物の住居となった。
- ②尚円(しょうえん)王が即位した後、安里大親がこの地を尚円に献上した。
- ③尚円王はこの地を、歴代国王の位牌を祀る施設とした。
- ④本堂に歴代国王の位牌を祀り、庫裏(くり)(僧侶の住まい)に聖観音(しょうかんのん)菩薩(ぼさつ)を祀った。
- ⑤臨済宗のお寺として「崇元寺」(山号:霊徳山(れいとくざん))と名付けられた。
- ⑥県内では例のない三連アーチの石門を備えた。
- ⑦崇元寺で、中国からの使者「冊封使(さっぽうし)」が先王を弔う「諭祭(ゆさい)」の儀式が行われた。
- ⑧歴代の冊封使が崇元寺に多くの扁額(へんがく)を残した。
- ⑨扁額の多くは、「孝(こう)」や「徳(とく)」を意識した儒教的な文言である。
- ⑩崇元寺は沖縄戦で焼失したが、三連アーチ石門は残り、戦後いち早く修復された。
- ⑪崇元寺跡地には図書館やホールの機能を持った「琉米親善センター」が設置された。

3. ガイダンス施設概要

ガイダンス施設は木造平屋で、広さは約433㎡(127坪)を予定し、崇元寺の歴史や文化を紹介する展示室や映像ホール、事務室等を整備する。また、ガイダンス施設の南側は広場を整備し、今後、崇元寺公園と一体化を図る予定。

ガイダンス施設外観イメージ



戦前の崇元寺本堂



ガイダンス施設建設予定地(案)



施設の場所：那覇市泊1-9-9

お問い合わせ先

- 【住所】 〒900-8585
那覇市泉崎1丁目1番1号
那覇市役所 市民文化部 文化財課
- 【電話】 098-917-3501
- 【FAX】 098-917-3523
- 【電子メール】 C-BUNKAZAI001@city.naha.lg.jp